

2021 年度事業報告書

NPO 法人三段峡一太田川流域研究会

I, 総括

2021 年度のテーマは「根を出す」とした。新型コロナウイルス感染症流行により変化する社会様式に、三段峡憲章の持つ役割を改めて見つめ直し、都市と田舎の新たな関係構築に寄与するべく取り組んだ。

8 月には台風や豪雨により、ぐるの瀬で大きな土砂災害が発生し、現在に至るまで通行止めが続いている。さんけんは三段峡清掃の集中実施などで峡内の通行可能区間の延長や、餅の木―聖湖区間の魅力増加に取り組んだ。清掃活動は参加者が増え、三段峡を大切に作る仲間を集める事業となっている。

2019 年より広島大学「地域の元気応援プロジェクト」で共同事業を継続している広島大学中坪研究室の学生と広島大学総合博物館の学生スタッフによる、「広大さんけん部」が発足し、三段峡の博物館展示などに取り組んだ。

大和重工やお墓の大和との共同事業も始まり、自分たちだけではできない活動ができた。さんけん自然塾などの自然体験プログラムの実施や、太田川流域振興交流会議の学校間交流事業や地球環境フォーラムひろしまのこどもエコツアーなど環境教育事業での受託と本年は伸びがあった。

また三段峡の動植物を記録する WEB 図鑑「原色広島三段峡図鑑」が始まり、県内の植物愛好家によって結成したさんけん植物部や広大さんけん部によって更新がされている。2021 年度はパートナーシップの広がりが特筆される。

6つのプロジェクトの実施を計画し、それぞれに進捗があった。協力者の増加により事業の質と規模が向上している。しかし、三段峡名勝指定 100 周年に向けた取り組みや帝釈峡との連携、エコツーリズム推進法の認定や西中国山地国定公園サステナブルツーリズム推進協議会の運営などは成果がなかった。